

1 情報発信のネットワークをつくろう

【概要】

<現状>

情報を必要とする人に、必要な情報が届いていない現状があります。

また、広報紙が届いても、高齢者には字が小さくて読めなかったり、目の不自由な方には点字や音声でないため、せっかくの情報が伝わっていません。

なかなか外に出て情報を集めることができない人にも情報が伝わりません。

<対応>

地域の様々な情報を集約し、地域生活に密着した情報紙をつくります。そして、地域のスーパーや病院・郵便局などの協力を得て、そうした情報がいろいろな場所で手に入るようにします。

また、情報を点字・音声・拡大文字にする、近隣の人が読んで伝える、インターネットを活用するなど、すべての人に情報が行き渡るしくみをつくります。

【推進】

- 1) 既存の情報提供システムの実態把握、必要な情報の把握・選定・集約
- 2) 情報紙の作成
- 3) インターネットでの情報発信
- 4) 情報協力店づくり
- 5) 情報提供システムの検討
- 6) 新システムでの情報発信

【時期】

実施項目 / 実施時期	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
情報の把握等					
情報紙の作成					
インターネットでの情報発信					
情報協力店づくり					
情報提供システムの検討					
新システムでの情報発信					

【連携先】

区内官公署、地域団体、地域助け愛スタッフ等

2 福祉なんでも110番をつくろう

【概要】

<現状>

困ったときにどこに相談すればよいかわからない、情報が必要としている人に伝わらない、せっかくある情報が活用されていないという現状があります。

<対応>

「困ったときにどこに相談すればよいか案内してくれる窓口」を社会福祉協議会に設置します。

その場で解決に結びつかなくても、専門機関と連携し、問題の整理をして道案内をする「総合病院の窓口」のような役割を目指します。

また、既存の窓口のように埋もれさせないために、積極的に存在をPRします。

【推進】

- 1) 区内福祉施設等の協力を得て、窓口開設の試行実施(週1回)。
- 2) 相談業務の分類・整理
- 3) 相談員の育成・確保
- 4) 本格実施

【時期】

実施項目 / 実施時期	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
試行実施					
相談業務分類・整理					
相談員の育成・確保					
本格実施					

【連携先】

区内福祉施設・専門機関等、専門相談員等

3 ご近所の輪を広げよう

【概要】

<現状>

ご近所づきあいが希薄になり、高齢者や障害のある人たちばかりでなく、子育てをしている母親、就労している人など、多くの人が地域で孤立した生活を送っています。

<対応>

地域で安心して暮らしていくためには、人と人とのつながりがやはり大切です。気軽な挨拶や声かけ、井戸端会議をきっかけに人間関係をつくり、生きがいづくりや見守り活動につなげ、お互いに支えあう地域づくりを進めます。

また、既存の見守り活動の連携を図り、新しい見守りネットワークシステムを検討し、漏れのないようにします。

【推進】

- 1) 状況把握・情報収集
- 2) 概ね町内レベルのたまり場の試行実施
- 3) 概ね学区レベルのサロンの試行実施
- 4) 拠点機能づくり
- 5) 既存組織への働きかけ（見守り活動の連携）
- 6) 新しい見守りネットワークシステムの検討

【時期】

実施 / 実施時期	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
状況把握・情報収集					
たまり場試行実施					
サロン試行実施					
拠点機能づくり					
既存組織へ働きかけ					
見守りシステム検討					

【連携先】

地域住民、地域団体、地域助け愛スタッフ等

4 地域で子どもを見守ろう

【概要】

<現状>

地域に住む子どもは、地域の宝です。しかしながら、地域社会における人間関係は希薄となり、昔のように隣近所で子育てする風土が失われ、虐待や非行といった問題が発生しています。また、子ども110番にはついては、各学区に最低10箇所はあるものの、設置後、移転等の際に更新されていない状況にあります。

<対応>

よその子に声をかけることが見守り活動の第一歩です。地域住民、会社・商店等と連携し地域で子育てができるよう取り組みます。具体的には、地域住民、会社・商店等の日常的な活動における見守り活動を協力要請するとともに、既存の「子ども110番」の拡大をも図ります。

【推進】

- 1) 現状の把握（学区特性など）
- 2) 子ども110番の拡大要請
- 3) 通学路付近の住民、会社・商店等への協力要請
- 4) 日常生活における見守り活動の実施

【時期】

実施項目 / 実施時期	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
現状の把握					
子ども110番の拡大要請					
地域への協力要請					
見守り活動の実施					

【連携先】

地域住民、地域団体、区内官公署、小学校、商店街組合等

5 地域で楽しく子育てを学ぼう

【概要】

<現状>

現在、地域において若い世代（特に父親）は同じ仲間が見つからないことにより、地域に出る機会があまりありません。

また、若い世代は家庭や地域での子育てを知らない現状があります。

<対応>

地域で子育てをすること、子育てを学ぶことで、楽しさから継続できる子育てを行い、子育てマインドを育みます。特に父親の参加が少ないことから、現在の多様化した労働事情も考慮し、父子の参加を促します。

また、地域の大人から子どもたちに「子育て体験」の機会を与えることで、子育ての楽しさを伝えるとともに、少子化・虐待などの問題解決につなげます。

【推進】

- 1) 人材発掘を兼ねた「子どもの物申せ大会」等の具体的イベントの実施
- 2) P T A 等他組織との連携し、父親クラブ等の結成支援
- 3) 子育て体験インストラクターの養成
- 4) 地域主体の福祉体験プログラムの実施
- 5) 学校主体の福祉体験プログラムの実施

【時期】

実施項目 / 実施時期	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
人材発掘（イベント）					
組織の構築					
インストラクターの養成					
地域主体での実施					
学校主体での実施					

【連携先】

地域住民、地域団体、小・中学校、保育園、幼稚園等

6 誰もが参加できる企画づくりをしよう

【概要】

<現状>

催し物・講座等が、高齢者・障害者・子どもを持つ人など「誰もが参加できる」ための配慮があまりされておらず、参加したくても参加できない状況があります。

<対応>

催し物・講座等への手話通訳・要約筆記通訳・託児・車いすの配慮などを書いた「企画マニュアル」を作成し、配布します。このマニュアルを通して、こうした配慮が当たり前という意識づけをしていきます。

さらに、地域での行事でも、誰もが参加できる行事になるよう支援します。

【推進】

- 1) 企画マニュアル作りのための「作成委員会」の組織化
- 2) マニュアル作成
- 3) 催し物の主催者・実施団体にマニュアルを配布
- 4) 学区運動会のモデル実施

【時期】

実施項目 / 実施時期	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
作成委員会の組織化					
マニュアル作成					
主催者へマニュアル配布					
運動会モデル実施					

【連携先】

地域住民（当事者）、地域団体、区内官公署、小・中・高等学校等

7 バリア探検隊を結成しよう

【概要】

<現状>

区内にある公共施設等には、高齢者、障害者、子ども連れの方など誰もが使いやすい設備（音声・字幕ガイド、車いす用スロープ、絵や写真の表示案内、ベビーカーへの配慮など）が少なく、またはあっても使い勝手が悪いなど、使う人の立場に立った施設づくりがされていないことがあります。

<対応>

現状を調査し、当事者からマナー・モラルの大切さや困っている点を地域や施設等に話すことで、誰もが安心して出かけられるまちづくりの提案をしていきます。

また、当事者と子どもたちが一緒に調査をすることにより、子どもたちが思いやりのある心を育くむことを目指します。

あわせて、公共サービスに携わる職員を対象に、アイマスク体験・車いす体験等の福祉体験を実施し、高齢者や障害者、子どもを持つ親など当事者の理解を深めます。

【推進】

<調査・提案>

- 1) 調査実施の核となる当事者と事前準備
- 2) 項目別調査の実施（「トルマップ作り」の継続実施）
- 3) 項目別調査結果を広報等に掲載、設置者への働きかけ
- 4) 提案や実現に向けての支援
- 5) 当事者が困っていることを話す出張講座の企画・実施

<職員の福祉体験>

- 6) 福祉体験インストラクターの確保と体験メニュー作成
- 7) 区内公共施設等での実施
- 8) 研修プログラムに組み込むよう、市役所・教育委員会、企業等への働きかけ

【時期】

実施項目 / 実施時期	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
事前準備					
項目別調査の実施					
項目別調査結果の報告					
実現に向けての支援					
出張講座の企画・実施					
インストラクターの確保					
区内公共施設等での実施					
市・教育委員会等へ働きかけ					

【連携先】

地域住民（当事者）、小・中・高等学校等、地域団体、地域助け愛スタッフ、市・区内官公署等

8 地域福祉サポーターを確保しよう

【概要】

<現状>

地域福祉活動を実施するにあたり、地域住民の視点に立ったきめ細かい企画、運営等が求められていますが、それに対応する能力を持った人材が少なく、円滑な活動がおこなわれていない現状があります。また、長年企業等に勤め培ってきた知識・技術・経験のある人材を、新たなボランティア活動の担い手として活かせていません。また、人材の発掘がなされていません。

<対応>

住民の視点で社会福祉協議会と地域住民・ボランティアとをつなぎ、新たな事業の開拓や他団体との折衝を行うことによる、円滑な事業の実施や、担い手であるボランティアの継続的なフォローを行うことができる専門性を持った、いわゆるプロフェッショナルとしての役割を持つサポーター的人材を有償で確保します。

【推進】

- 1) 現状把握（実態、ニーズ）
- 2) 必要な人材像、人数の把握
- 3) 人材確保

【時期】

実施項目 / 実施時期	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
現状把握					
内容の整理、把握					
人材確保					

【連携先】

地域住民、地域助け愛スタッフ等

9 地域助け愛スタッフを募集しよう

【概要】

<現状>

社会福祉協議会においても、ボランティア登録の受付を行っていますが、あまり積極的なPRがなされておらず、求められている機能が充分発揮できていない現状があります。

また、住民の中で、ボランティアをやりたくても、「特技」がないから活動をあきらめている人が多く見受けられます。

<対応>

事業を実施するにあたり、各事業の担い手としての人材を積極的にPRして募集します。

地域住民みんなでお互いに助け合いの精神で、特技のある人ない人関係なく、誰もが地域福祉の担い手になりえます。人材登録について、積極的な働きかけを行います。それとともに具体的な活動を行う上で必要な、スタッフ間の調整等とりまとめができる人材を養成します。

【推進】

- 1) 現状把握（実態、ニーズ）
- 2) 必要とされるサービス内容の整理、必要な人材像、人数の把握
- 3) 運営方法の検討、構築
- 4) 人材募集（参加・登録）
- 5) スタッフリーダーの養成

【時期】

実施項目 / 実施時期	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
現状把握					
内容の整理、把握					
運営方法の検討					
人材募集					
スタッフリーダーの養成					

【連携先】

地域住民、地域団体、東ほっとネット等

10 人材確保の新しいしくみを考えよう

【概要】

<現状>

社会福祉協議会においても、ボランティア登録の受付を行っていますが、あまり積極的なPRがなされておらず、求められている機能が充分発揮できていない現状があります。

また、継続的・専門的な地域福祉活動を維持するために、今までのボランティア活動の考え方では、人材を確保することには無理があると思われれます。

<対応>

今後必要とされる、継続的・専門的な地域福祉サービスを維持するための人材確保には、労働の対価ではない有償化を含めた新たなしくみづくりを考えます。

【推進】

- 1) 現状把握(実態、ニーズ)
- 2) 運営方法等の検討
- 3) 事業に見合った試行導入

【時期】

実施項目 / 実施時期	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
現状把握					
運営方法等検討					
試行導入					

【連携先】

地域住民、地域団体、福祉のまちづくり推進会議、地域助け愛スタッフ等